

(様式第1-2号)

## 平成 22 年度 農業主導型6次産業化整備事業実施計画

### 1 6次産業化法人について

#### (1)6次産業化法人の概要

6次産業化法人の名称	組織の形態	代表者名	設立年月日
有限会社 中山農場	農事組合法人以外の農業生産法人	中山 勝志	平成8年9月5日
主たる事務所の住所	北海道野付郡別海町中春別302番地2	TEL FAX	セキュリティに配慮し、 非公開といたします。

#### (2)6次産業化法人の構成員

構成員の氏名	年齢	住所・所在地 (都道府県市町村名)	出資金額	出資比率	備考 (農業生産法人である場合)
当該項目については個人情報を含むため、非公開といたします。					
合計			3,000,000 円	100 %	

(注) 備考欄には、農業生産法人である場合に農地法第2条第3項第2号に掲げる要件のいずれかを記入すること。この場合、常時従事者は「常」、農地等の使用収益権を移転・設定しているときはその旨を記入すること。

#### (3)6次産業化法人の経営状況

項目	
総収入(A)	当該項目については企業の経営内容の詳細を含むため、 非公開といたします。
総支出(B)	
売上高(C)	
営業利益(D)	
経常利益(E)	
当期利益 (A-B)	
総資本(G)	
自己資本(H)	
総負債(I)	
収支率 (A/B × 100)	
総資本経常利益率 (E/G × 100)	
売上高経常利益率 (E/C × 100)	
負債比率 (I/H × 100)	

- (注) 1 総収入＝売上高＋営業外収益＋特別利益  
2 総支出＝売上原価＋販売費及び一般管理費＋営業外費用＋特別損失  
3 営業利益＝売上高－売上原価－販売費及び一般管理費  
4 経常利益＝営業利益＋営業外収益－営業外費用  
5 負債比率＝総負債(他人資本)÷自己資本×100

(4)6次産業化法人の現状及び課題

<p>現状と課題</p>	<p>[概要] 660頭の牛の飼育を行い搾乳、圃場作業、その他付随する業務を行う。年間3500tの生産量で道内では47番目の規模(所属農協では1番の成績を維持)。毎日10tの生乳を生産しているが、その量は200mlパックで5万人分の量に匹敵する。その大量の生乳をJAの専用ローリーに移し出荷するため、先の流通経路が見えない仕組みになっている。世界一良質であると自負する生乳(平均乳脂肪率4.1%以上、乳蛋白質3.5%以上)が他の牧場の物と混合され加工されている現状である。別海町の一つの町で全国の内5%も生産している一大生産地であるにもかかわらず、全国一の酪農王国の良質でおいしい生乳が市場で殆ど見られない事は生産地としては寂しい限りである。</p> <p>[沿革] 昭和16年に先代が現所在地に入植、昭和34年に酪農業開始、昭和57年に現代表の中山勝志に事業継承。平成8年に法人化し、有限会社中山農場を設立。 平成3年にフリーストール牛舎、ミルクングバーラー導入によりいち早く急速な拡大を行った。さらなる大規模化には人材の力が大変重要なため、現在は技術の向上と人材の活用に重点を置いている。</p> <p>[商品] 搾乳した生乳を指定生乳生産者団体へ販売しているため、自社製品は存在していない。また指定生乳生産者団体と全量取引のため販売部門がなく、その先で取引された牛乳は全て大手メーカーの加工原料となり安価な原料の一部分とされている。</p> <p>[所得] 平成21年度3月期法人申告所得23,492千円で21年度売上高はおよそ331,168千円。乳価が年々下がりが続いている中平成21年度に漸く上昇したが、世界的な飼料価格の上昇により、年々経営を圧迫している。従来の企業努力では収益の上昇が見込めず、搾乳以外の仕事も行う必要性が増加している。</p> <p>[雇用] 地元住民を積極的に採用。常時雇用が6名(そのうち3名は町内からの雇用)、臨時・期間従業員が5名おり、地域の雇用に大きく貢献している。しかしながら経営規模の拡大を行わない限り、収益や農場規模の面でこれ以上の雇用は難しい。ナチュラルチーズの事業を立ち上げ、連携企業との共生、従来の搾乳、牛の販売の拡大、さらには酪農の技術を学ぶ場を作る事により、雇用拡大や研修生の受け入れなどの人材交流を行い、別海町をチーズのふるさととして位置付けていきたい。農場全体の活性化も行う事で別海町、ひいては北海道の有力企業のひとつとして成長していきたい。</p> <p>[事業に取り組むこととなった背景] 従来は搾乳を中心に行っていたが、世界情勢などの要因で飼料価格や生乳価格の下落により収益が大きく変動している。その為様々な農場の努力が行われているにもかかわらずなかなか表に現れないのが現状。自社より出荷する際にチーズの加工を行い、従来の工房製チーズとは一線を画した製品、すなわち消費者が求める商品の製造、安定供給が出来る規模、常に安定した品質、本業の農場と独立採算制を採れる収益の確保、市場にマッチした価格設定を行う事が重要。どの家庭でも気軽に購入出来る商品を開発する。減少し続けている牛乳の消費を拡大させなければ今後の酪農業の未来はないと考え、まずは自社で出来る事から始めようと平成19年より乳加工の知識の習得、取り組まれている方との交流等を始めた。</p>
<p>6次産業化の展開方針</p>	<p>[6次産業化の展開方針] 生乳の生産、乳製品の加工製造、販売を手掛け、提携業者を作り、関わる人が幸せになる環境を構築する。別海は一大生産地であるにもかかわらず、乳製品を加工し全国的に販売している農家がほとんど存在しない空白地である。苦労して生産した生乳は大手メーカーの原料の一部として他の生産者の生乳と混ぜられている現状である。メガファームがチーズづくりに参入するという新しい試みにより、地元の雇用機会を増加し、人材を育てる環境を作ると共に地元のスーパー等を中心に適正価格で提供し、チーズの普及に努め地域の中核を担っていきたい。もちろん卸売りだけでなく、直売所での販売やインターネット販売も視野にあり、自社で出来る生産量増加や品質向上に努め、一人でも多くの消費者に魅力を伝えていきたい。</p>

①農業生産

作物・部門別	計画時		目標年度	
	作付面積等	生産量	作付面積等	生産量
生乳	660 頭	3,510 t	880 頭	4,680 t
牧草・サイレージ	230 ha	8,000 t	300 ha	11,500 t
	ha	t	ha	t

②加工(2次産業分野)

作物・部門別	内容	製造量	
		計画時	目標年度
乳製品	ナチュラルチーズ	0 t	18.7 t
		t	t
		t	t

③流通・販売(3次産業分野)

作物・部門別	内容	販売額	
		計画時	目標年度
乳製品	ナチュラルチーズ	0 千円	45,084 千円
		千円	千円

2 連携法人について

- (1)連携法人の概要 【1の(1)に準ずる】
- (2)連携法人の構成員 【1の(2)に準ずる】
- (3)連携法人の経営状況 【1の(3)に準ずる】
- (4)連携法人の現状と課題

現状と課題	[概要] [沿革] [商品] [所得] [雇用] [課題]
6次産業化法人との連携内容	[6次産業化法人との連携内容]

農業生産 【1の(4)に準ずる】

### 3 成果目標及び達成プログラム

#### (1) 目標設定

項目	計画時 (平成21年度)	1年度目 (平成22年度)	2年度目 (平成23年度)	3年度目 (平成24年度)	4年度目 (平成25年度)
(所得の向上に関する成果目標)	331,168 千円	345,542 千円	371,366 千円	424,883 千円	453,591 千円
売上高の増加	100 %	104.3 %	112.1 %	128.3 %	137.0 %
(雇用の創出に関する成果目標)	6 人	6 人	7 人	8 人	9 人
(地域の活性化に関する成果目標) [ 農業研修生の受入れ ]	0 人	2 人	3 人	4 人	5 人

#### (2) 目標設定の考え方

項目	目標設定の考え方
(所得の向上に関する成果目標) 売上高の増加	地域に愛される商品を製造して、適正な価格での販売を行う事で家庭の定番商品とする。ナチュラルチーズ全体の消費拡大を図り、地域での特産品として定着させる。近場では自らで足を運んで普及に努める事となるが、遠方の地域では商社経由等での流通となり、商品を適正価格で安定供給をする事で、信用を得、売上増につなげたい。
(雇用の創出に関する成果目標) 雇用の増加	地域のやる気のある人材を積極的に登用したい。具体的には平成23年度、24年度、25年度と、各年度に1名ずつ新規雇用を考えている。さらに登用するだけに留まらず、出来る限り地域の会社ともネットワークを構築し、優秀な人材の育成にも力を注ぎたい。
(地域の活性化に関する成果目標) [ 農業研修生の受入れ ]	根室管内で1頭当たりの年間平均乳量が1万キロを達成した最初の農場であり、搾乳や牛の飼育法で良好な成績を収めている。日本全国、海外の研修生受入れにより雇用機会の増加を図り地域経済発展に貢献すると共に、他都市への人口流出を抑え、離農防止をする為、当農場が率先して行動を起こし、人材交流活動の中で技術や情報の発信拠点となっていく。またHPで積極的な情報提供に努め、ナチュラルチーズの研修施設としても活動できるよう、初期の段階から取り組んでいきたい。

4 整備計画等

(1) 機械・施設等の整備計画

No.	事業主体名	整備内容		工期		機械・施設の 設置・保管住所
		施設名	事業量 (規模、台数等)	着工 年月日	竣工 年月日	
1	有限会社 中山農場	農産物加工施設 (チーズ加工)	298.33 m	平成22年12月21日	平成23年3月31日	別海町中春別307
2						
3						
4						
5						

No.	総事業費	負担区分			融資先		備考
		国庫補助金	自己資金	その他	金融機関名	償還年数	
1	96,326 千円	35,316 千円	61,010 千円	0 千円	日本政策金融公庫	20 年	補助率1/2以内
2	千円	千円	千円	千円		年	除税額 4,587千円 うち国費 1,766千円
3	千円	千円	千円	千円		年	
4	千円	千円	千円	千円		年	
5	千円	千円	千円	千円		年	
計	96,326 千円	35,316 千円	61,010 千円	0 千円	日本政策金融公庫	20 年	

- (注) 1 工期欄には、申請時にあつては着工及び竣工予定年月日を、実績報告時にあつては実際の着工及び竣工年月日を記入すること。
- 2 担保欄には、補助対象物件を担保に供し、自己資金の全部又は一部を金融機関から融資を受けようとする場合に記入すること。
- 3 備考欄には、国庫補助率を記入するとともに、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には減額した金額を、仕入れに係る消費税等相当額がない場合には「該当なし」と、仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること。
- 4 補助金実績報告時において、承認のあつた事業実施計画のうち整備計画の内容に変更が生じた場合には、本様式の4の(1)整備計画を修正して添付すること。

(2) 事業費低減の方策

施設等名	事業費低減の具体的方策
農産物加工施設	機械は最小限の導入に留め、搬入(調整は納入会社)も車上渡しで行うことで運搬費の削減、事業費圧縮に努める。機械については指名競争入札、建築については一般競争入札を実施。

(3) 関連事業

他の補助事業で整備した機械・施設等

事業名	事業内容	実施年度	利用計画	利用実績	利用率(%)

(4)機械・施設等の利用計画

事業実施主体 (管理主体)	構造・規格	規模・台数	管理運営 従事者	利用(稼働)期間	施設運営に係る 収入/年間(千円)	施設運営に係る 支出/年間(千円)
(有)中山農場	鉄筋 コンクリート 1階建	298.33㎡	職員 4人	187日/年	(内訳) 45,084	(内訳) 42,612

対象作目	稼働計画(処理量)/年間	適正かつ十分な利用が見込まれる理由
農産物加工施設	ナチュラルチーズ 製品量 18.7t/年	1日1ロット(最大1tの生乳を処理し、歩留10%100kgのチーズになる)生産し、年間187日稼働させる。チーズ文化の浅い日本においては、クセの強いチーズは一般的では無いことから、適正価格で、食べやすかつ質の高いチーズをスーパー等へ安定供給し、需要を掘り起こすことで、十分な利用が見込まれる。

(注)1 機械・施設等ごとに作成すること。

2 処理量は機械・施設等に応じて、(t・千円・ha)等を記入すること。

5 費用対効果分析

項目	効果等	備考
総事業費:A(千円)	96,326	
1 効果の内訳(年効果額):B(千円)		
(1)直接効果	8,506	
①生産向上効果	17,891	
②経費節減効果	-23,115	
③経営基盤保全効果	0	
④農外所得増加効果	13,730	
(2)間接効果		
①地域所得増加効果		
②洪水防止効果		
③水源かん養効果		
④土壌浸食防止効果		
⑤土砂崩壊防止効果		
⑥有機性廃棄物処理効果		
2 直接効果比率:直接効果額/年効果額	100	
3 廃用損失額:C(千円)	0	
4 還元率:D	0.08	
5 総合耐用年数	17.7	
6 妥当投資額:E=B/D-C	106,352	
7 投資効率:F=E/A	1.10	